

私が病院実習で一番印象に残っているのは、高校二年生の時に受け持った重度心身障がい児の患者様とのコミュニケーションです。患者様に応じたコミュニケーションを行い、信頼関係を築くことはとても難しいことですが、それができなければ看護は始まりません。話しが出来ない患者様とのコミュニケーションはさらに難しく、実習二日目のその日は、患者様の隣に座り、タッチングをしながら歌を歌うと、患者様は徐々に興奮し大きな声を上げられました。そして、突然私の腕や足、首などを引っ掻き始めました。私はどうすることもできずに、ただ患者様が自ら止めるまで待つことしかできませんでした。その時の実習終了後には皮膚に赤い痕が残っていました。

患者様は自分の思いや考えを言葉で伝えることができずに、声をあげたり爪で引っ掻いて自分の気持ちを伝おうとしてるのだと頭ではわかっているけど、患者様とコミュニケーションをとるのが怖くなってしまいました。先生に相談すると「受け持ちを変えようか」と言われました。しかし、患者様の気持ちと向き合わず、何もできないまま受け持ちを変えれば、逃げてしまっていることと同じことだと思い、それだけはしたくありませんでした。

私は患者様に自分の気持ちを伝えることにしました。最初は引っ掻こうとする患者様の手を握り、「痛い」と伝えることが精一杯でした。しかし、引っ掻く行為は収まらず、指導者から「今までの受身のコミュニケーションではなく、ダメなものはダメだと伝えることも一つの方法だ」と助言を受けました。その後、ダメというだけでなく「こうされたら嬉しい」ということも伝えようと、患者様の手を握り私の腕を撫でるように動かして「撫でられると嬉しいよ」と少し大袈裟に言い、それを何度も何度も続けました。そこから少しずつ引っ掻くという行為は減っていき、患者様は稀に撫でるという行為をしてくださるようになりました。初めて撫でてもらった時はとても感動しました。

そして、指導者からは「患者様が貴方の声掛けに対して笑ったり、嫌がるトイレも一緒に行ったり、こんなに短時間で人に心を開いたのは貴方が初めてじゃないかな」と言っていただき、本当に嬉しかったです。

私は今回の実習で改めてコミュニケーションの大切さを学びました。私はこれから沢山の人と出会うことになり、何度も対人関係で悩むことがあるかもしれませんが、どんな人にも関心を向けて、その人と正面からぶつかることにより何かが変わるに違いないと思いました。私は今回の病院実習での経験を生かし、これからも看護師の道に進みます。